

令和5年 第4回総務経済常任委員会会議録

令和5年 3月 7日 議員控室

○事 件

所管事務調査

(1) ひらたない温泉あわびの湯への損失補填について (産業課)

○出席委員 (7名)

委員長 安 藤 辰 行 君
横 田 喜世志 君
関 口 正 博 君
倉 地 清 子 君

副委員長 牧 野 仁 君
大久保 建 一 君
宮 本 雅 晴 君

○欠席委員 (1名)

三 澤 公 雄 君

○出席委員外議員 (6名)

議長 千 葉 隆 君
赤 井 睦 美 君
斎 藤 實 君

副議長 黒 島 竹 満 君
佐 藤 智 子 君
能登谷 正 人 君

○出席説明員 (2名)

産業課長 吉 田 一 久 君

桂 川 芳 信 君

○出席事務局職員

事務局長 三 澤 聡 君

事務局次長 成 田 真 介 君

[開会 午前11時05分]

◎ 開会・委員長挨拶

○委員長（安藤辰行君） それでは、これより総務経済常任委員会を開催いたします。
会長挨拶は割愛させていただいて、早速ですけれども、報告事項に入りたいと思います。

◎ 所管課報告事項

【産業課職員入室】

○委員長（安藤辰行君） 産業課、報告をお願いいたします。

○産業課長（吉田一久君） それでは、急遽この常任委員会のほうを開催いただきましてありがとうございます。私、産業課のほうから、ひらたない温泉あわびの湯への損失補填ということでご報告させていただきます。申し訳ありませんが、座って説明させていただきます。

資料のほう一枚目をお願いいたします。ひらたない温泉あわびの湯への損失補填ということで、このあわびの湯につきましては、利用料金制度を導入しております管理施設となっております。これまでも新型コロナウイルス感染症の関係で過去、損失補填を●●しておりますが、最近になりまして、コロナの感染症も減少傾向にありまして、社会活動も徐々に活発化してきている状況にはございますが、あわびの湯の利用客につきましては、コロナ発生以前の状況にまでは戻っておらず、また、円安など、燃油価格や電気料の大幅な値上げ、またそれに伴う原材料価格の高騰などもありまして、あわびの湯の経営に損失が生じていることから、指定管理者に対し、本年度の減収並びにコスト高による損失見込額相当分を補填しようとするものでございます。この指定管理者につきましては、株式会社温泉ホテル八雲遊楽亭代表取締役 黒島竹満でございます。

損失額算定の方法でございますが、資料二枚目のほうになります。令和元年度までの5ヶ年の利用状況から、通常時の収入見込額を算定してもらいます。これにつきましては、令和4年度までの、これまでの過去の減少率等も加味しながら、自然減による減少の分も含めてこのように、たとえば、通常の収入見込額ということで算定いたしまして、令和4年度の収入見込額との差につきまして、まず補填すると。併せまして、前年度の支出額と今年度の支出額の差とにつきましても、およそ230万円程度あるんですけども、この差も踏まえて、全体といたしまして、340万円を損失補填ということで考えてございまして、これにつきましては、この後の、第1回定例会で、令和4年度予算の補正案ということで上程する予定でございます。以上、簡単ではございますが、このひらたない温泉あわびの湯への損失補填についての説明とさせていただきます。どうぞよろしくをお願いいたします。

○委員長（安藤辰行君） ありがとうございます。今、説明いただきましたけれども、何か質問ございませんか。

○議長（千葉 隆君） はい。

○委員長（安藤辰行君） はい、議長。

○議長（千葉 隆君） あの、このことについては、このとおりにやってほしいということを前提で、やっぱりあの、次年度以降のね、コロナの分類も変更になったり、マスク解禁になったりするんですけども、燃料の高騰とか、そういう状況も続くだろうし、確かにコロナ禍で利用者さんが少なくなっているというのも、見てわかるんですけども、実質、平成27年

の頃は、2,600人くらい町民がいて、今、1,900人くらいになっているということ、700人くらい減少しているんですね。その減少率のほうがコロナより大きいというふうに見るのが通常だと思う。

だから、そういう部分も含めて加味しながら積算はしていると思うけれども、もう一方、こないだの新聞でも、統計調査、出生率が統計上っていうか、予測よりも8年も早く進んでいる。実際、熊石地域の出生率も少ないということになれば、より根本的に規約の内容だとか、存続の方法だとか、運営の部分、根本的に考えていかなきゃならないんじゃないかなど。

一方、八雲のほうも、おぼこ荘の関係で民営化にするというあるんだけど、危機的な利用者の減少というのは、おぼこ荘よりも、こっちのほうが大変だなと、課題として大きいと思うんだわ。だからどういうふうに、無くせという議論じゃなくて、どうやってニーズがあるものに対して、継続してやっていくかっていう視点を、もう一回、コロナはコロナで分析してやってんだけど、本質な部分を考えていかないと駄目だなという感じをしているんですけども、その辺どうなんでしょうかね。

○産業課長（吉田一久君） 委員長、産業課長。

○委員長（安藤辰行君） はい、産業課長。

○産業課長（吉田一久君） 議長おっしゃるとおりのものでございまして、やはりあの、指定管理者制度。事務的な話から申し上げますと、令和5年度までの指定管理の期間となつてございます。令和5年度の指定管理委託料につきましても、これまで同様の280万というかたちで、予算のほうを要求させていただいてございますが、やはりこの指定管理料のあり方もそうでしょうし、やはり社会的に大きく情勢が変わっているというところは、我々も深刻に捉えておまして、やはり今後の、あわびの湯のあり方、存続に向けてどうしたらいいのかっていうのは、まさにこの令和5年度中には、結論がなければならぬという事項かなって思っております。

これにつきましては、今後、いろいろと議会のほうにもご相談しながら、改めて方向性、示していければなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○委員長（安藤辰行君） はい。他に。ないですか。ないようですので、これで終わりたいと思います。どうもご苦労様でした。

【産業課職員退室】

◎ 協議事項

○委員長（安藤辰行君） では二つ目の協議に入ります。

○事務局次長（成田真介君） 委員長、事務局次長。

○委員長（安藤辰行君） 次長。

○事務局次長（成田真介君） 前回、新幹線トンネル工事発生土に関して、三澤委員から情報提供ありまして、北斗市の会議録等を読んでいただいて、委員の皆様から意見を出されたところがございます。それで今日の資料はですね、まず一つ目に過去の新幹線推進室からの報告内容ということで、黒岩C地区に関するもので、まとめておまして、二番目に北斗市の会議録の内容、機構側の答弁ということでまとめて、それを踏まえたいうえで委員会が出た疑問点というものを整理してみました。

実は今日はですね、これについて皆様から、他に質問等があれば協議していただきたいと思っていたんですけども、情報提供者である三澤委員がおそらく欠席になるかと思いますので、この協議に関しては、皆さんに、ほかに疑問点ないかどうかを考えていただいて、15日に総務常任委員会ありますので、また15日のほうにですね、新幹線推進室から別の案件で報告もありますので、その際にも質問出ると想定はされますけれども、15日に改めて所管事務調査にもっていかどうかということも含めて協議したいなというふうに考えておりますけれども、よろしかったでしょうか。よろしく願いいたします。

○委員長（安藤辰行君） それでどうですかね。よろしいでしょうか。

○議長（千葉 隆君） 一点だけ。

○委員長（安藤辰行君） 議長。

○議長（千葉 隆君） 協定書、資料請求してもらったんだけど、三澤委員さんいないから、よくわからないと思うんだけど、北斗市の協定書持ってるんだった。

（何かいう声あり）

○議長（千葉 隆君） 一番は、協定書でどこが違うのかが比較するのにあれなので、もしも持ってたら、皆に配付して、どこが違うのかなっていうのを出示してもらったほうがいいかなと思います。

○委員長（安藤辰行君） それは三澤さんのほうに連絡して、15日にやるということですよ。よろしいですか。

（「はい」という声あり）

○委員長（安藤辰行君） その他ですけども。ないですか。他にありませんか。なければこれで終わりたいと思います。

[閉会 午前11時15分]